

1.背景及び目的

近年、日本建築学会内に建築博物館が設立され、日本においても建築ドキュメントの保存という問題に対して、社会的に関心が高まりつつある。しかし、先進的な活動を行っている欧米などと比較すると、まだ十分な成果が現れているとは言えない。

日本とともに近代建築史において「国際的な価値をもつ成果」を生んだブラジル^{註1)}は、建築アーカイブの分野においても独自の成果を上げつつある。その中^{註2)}でも図面保管数で最大のものとして挙げられるのがサンパウロ大学の建築・都市計画学部付属図書館^{註3)}(以下FAUUSP)であり、建築ドキュメントの修復・保存の技術の高さとコレクションの充実さから、南米において最も重要なアーカイブの一つとされている。

本調査は、日本では未調査であるFAUUSPのアーカイブの概要を把握することを目的とし、コレクションを成立させている図面数に着目して、FAUUSPの建築アーカイブの成立過程を考察する。

2.調査の方法

担当部署の職員、関係者^{註4)}からの聞き取り調査、アーカイブの組織に関する資料、コレクションに関するデータ類の収集を行う。

2-2.データ分析

収集した資料やデータ類から、各年度の寄贈枚数の集計とそれらの累計、個々のプロジェクトに関わる図面数を計画年度別に集計し、さらにそれらを地域で分別し、それぞれの傾向を分析する。

3.調査の内容

3-1.調査対象の概要

3-1-1.現在の活動及びこれまでの活動の概要

現在のアーカイブは、1960年代の後半から行われた学部内の教材の管理に由来し、組織としては教材や研究資料の管理を目的に、1971年に正式に発足する。記録されている最初のコレクションは、Carlos B. Millan氏^{註5)}のプロジェクトに関するものであり、現在修復作業やデータベース化されているものが約4万枚、未整理のものを含めるとおよそ8万枚の図面資料が保管されている。

2003年現在、部署の活動に対しての予算は独立したものではなく、図書館組織全体で管理されている。

その他の活動資金として、修復作業やインフラ整備などを行うためにVita^{註6)}eやFAPESP^{註7)}などの団体からの支援を受

正会員 ○砂川 慎吾 *1
同 山名 善之 *2

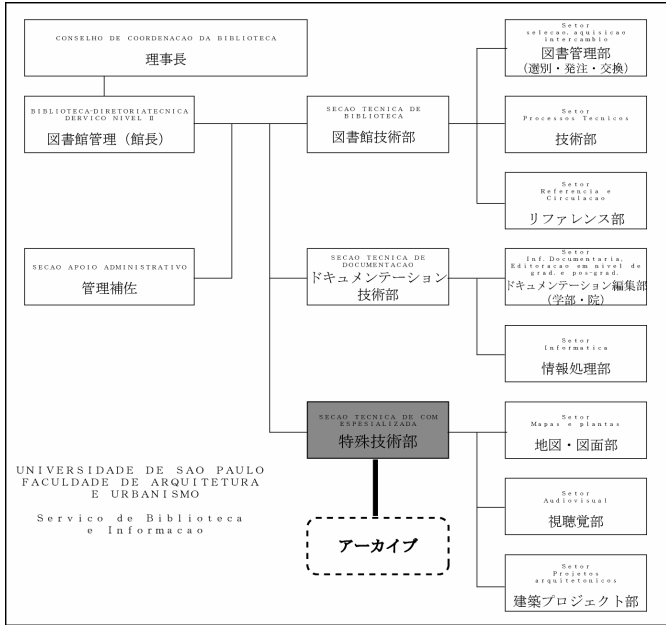
けている。

現在のコレクションは全て寄贈および寄託により収集されている。また、1988年にこれらの活動の成果をまとめたカタログ^{註8)}が出版されている。

3-1-2.アーカイブ組織の概要

組織の概要を図1に示す。

現在図書館組織には22名の職員が所属しており、そのうちの特殊技術部の2名がアーカイブの管理を担当している。

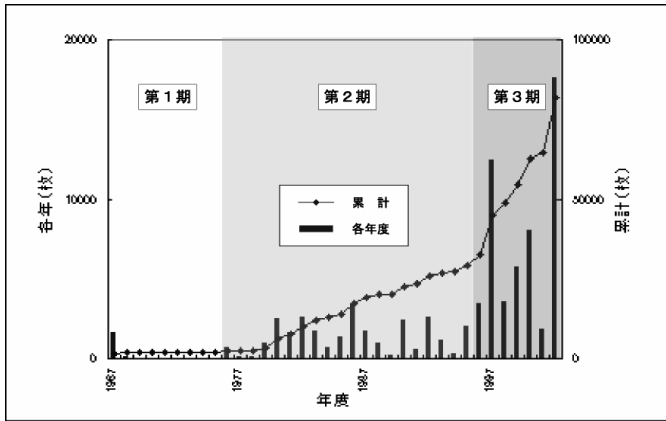


▲図1. FAUUSP図書館組織の概要

3-2.コレクションの内容に関する調査

3-2-1.年度別寄贈数

累計によるコレクション数の推移は図2のようになった。



▲図2. 各年度の寄贈数および累計の推移

3-2-2.プロジェクト図面の年度別集計と地域別割合

図面の枚数をプロジェクトの計画年度別に集計した(図3)。またプロジェクトの計画地とFAUUSPの所在地との地理的な関係から〈サンパウロ市内〉、〈サンパウロ州内〉、〈サンパウロ州外〉の3つに分別して図面数を集計した(図4)。

3-2-3.プロジェクトの計画地域の特徴

地域ごとに計画年度別に集計した図面数と、全体の集計結果とを比較し、各地域の特性とコレクション全体との関わりを調べた(図5・6・7)。

4.考察

寄贈によるコレクション数の変化の過程は大きく3つの時期に区分することができた。1967年の最初のコレクションが寄贈された年から寄贈のない1975年までを第1期とし、寄贈が毎年行われるようになった1976年から1995年までを第2期、各年度の寄贈数が、全体の寄贈数の年平均(2278枚以上)を超える年度が連続する1996年以降(2002年まで)を第3期とした。第3期の7年間ではコレクション全体の半数以上、およそ64%の寄贈が行われていることがわかった。

また、プロジェクトの計画年度別集計では、コレクションの全般的な傾向は〈サンパウロ市内〉のプロジェクトの傾向が反映されているが、〈サンパウロ州内〉のプロジェクトがコレクションの1970年代中ごろの図面数に影響を与え、〈サンパウロ州外〉のプロジェクトが1960年代前半の図面数に影響を与えていることがわかった。しかし、〈サンパウロ州外〉に関しては突出した図面数のプロジェクトの影響であり、地域の動向の反映であると言いはし難い状況と言える。

以上のことから、コレクションと地域との関わりは、所在地のプロジェクトがコレクションを成立させている主要素となっていることがわかった。

5.まとめ

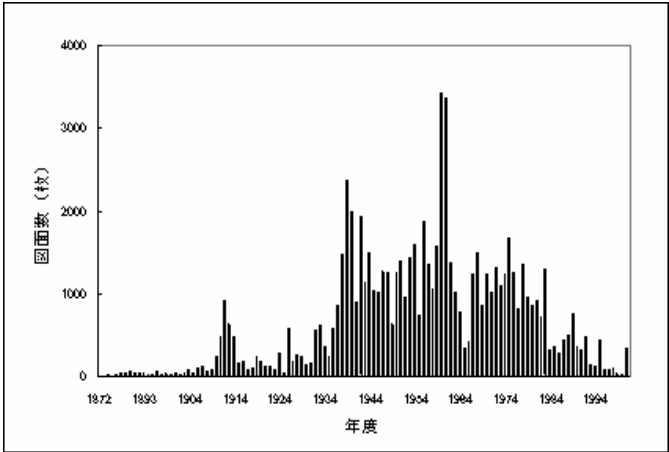
今回の調査では、寄贈によるコレクション数の推移からは、コレクションはいくつかの成長過程を示しながら図面数を増加させており、特に近年の比較的短期間での増大が傾向として見る事ができた。

また、プロジェクトの計画地とアーカイブの所在地には強い関わりがあり、サンパウロ市内の建築プロジェクトの傾向が強く反映されていることがわかった。

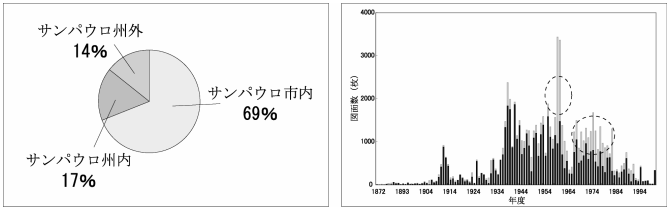
6.今後の課題

今後の課題としては、コレクション数の短期間での増大の要因を、コレクション数の推移と組織に対する外部の寄贈理由に結びつく評価との関係など、寄贈者側からの分析が必要である。

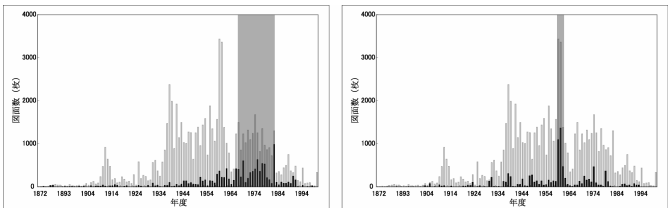
また、コレクションとの関連が強いサンパウロ市内での建築プロジェクトの建設数などの動向についても、具体的な相関関係を明らかにすることが望まれる。



▲図3. プロジェクト図面の計画年度別集計



▲図4 プロジェクトの地域別割合



▲図6 サンパウロ州内との比較

脚註

- 註1)「第2次世界大戦後、それまでになされた業績、そして少なくとも2つの場合ーブラジルと日本ーにおけるそれを再考する広汎な運動が始まり、国際的な価値を生み、もはやアメリカやヨーロッパのモデルに関わりをもたないで(中略)進行中の実験に刺激を与えることが出来た」 参考文献(1)下巻、p383
- 註2)ブラジルには他にもFundacao Oscar Niemeyer(オスカー・ニーマイヤー財団)、SEDUH (Secretaria de Estado de Desenvolvimento Urbano e Habitacao)ーブラジリアのドキュメントの保管などーのアーカイブがある。
- 註3)Faculdade de Arquitetura e Urbanismo da Universidade de Sao Paulo
- 註4)特殊技術部(図1)の管理責任者へのインタビューによる
- 註5)1927年-1964年。1958年からサンパウロ大学建築・都市計画学部講師
- 註6)文化財の保存や文 ao a Amparo e Pesquisa do Estado de Sao Paulo(サンパウロ州研究支援基金)
- 註8)参考文献(2)参照

参考文献

- (1)レオナルド・ベネヴォロ『近代建築の歴史』武藤章 訳 鹿島出版
- (2)FAUUSP Catalogo de Desenhos de Arquitetura da Biblioteca da FAUUSPLaboratorio de Programacao Grafica da FAUUSP 1988
- (3)Hugo Segawa Arquitetura no Brasil 1900-1990 Editora da Universidade de Sao Paulo 1999

謝辞;本研究の遂行に当たり、平成15年度卒業生高野光太郎氏、岡野貴之氏の協力を得た。ここに記して謝意を表する。